



スオスダイ！ (こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいされ、カンボジアでの宣教活動での継続が導かれました。

2024年1月に支援グループ「リビングフィールドの会」が発足し、更に2025年8月には、韓国の宣教団体「WUPM」への加盟が実現しました。主の御言葉と導きによって、現地での活動を継続しています。

近況報告

皆さま、いつも温かいお祈りとご支援、ありがとうございます。4月はカンボジアの正月、クメール正月があり、一番暑さが厳しい時期でもあります。今年は例年以上に気温が上がり、日中は40度を超える日も珍しくありません。この期間はプノンペン市民の多くが地方に帰省するため、交通量はぐっと減り、街は閑散となります。一方、中心部では、クメール正月恒例の水かけイベントがあちこちで見られます。お店の前で子どもたちが遠慮なく水鉄砲を向けてきたり、車の荷台からも、容赦なく水が飛んできます。新年を迎えた喜びのお祭りとも言えます。私たちも水鉄砲のシャワーを浴び、新年を共にお祝いしました。以下、3月と4月を中心に、現地で起こされた恵みの出来事をお伝えいたします。



教会近くの集落にて。
日曜学校に参加している子どもたち



CBUオフィスを訪問された学生の皆さん
ラッピング作業を手伝っていただきました。

CFFJapan キャンプ 「希望の糸」訪問

3月下旬、認定NPO法人「CFF Japan」より、16歳から24歳の学生15名のチームがCBUオフィスを訪問されました。約2時間という限られた時間の中で、「希望の糸」の活動に参加され、メンバーのケマさん、スレイモムさん、ソケーンさんと交流しながら、製品のラッピング作業を体験されました。また、「希望の糸」の活動の背景にある、カンボジアの女性を取り巻く現状について、スライドを使ってお伝えすることができました。

見よ、新しいことをわたしは行ふ。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。

イザヤ43：19

学生の皆さんは、私たちの説明に対して真剣な面持ちで耳を傾け、熱心に質問を投げかけてくださる姿が印象的でした。最後には、メンバーひとりひとりがお気に入りの製品を手にとって、購入を通して活動を支援してくださいました。ケマさんたちも、自分たちの作品が喜ばれる姿を目の当たりにし、とても嬉しそうでした。

一般の学生チームを教会に迎え、宣教活動の一部に加わって頂き、とても意義深いひと時となりました。この機会を通して、「希望の糸」が広がったことを感謝します。訪問して下さった学生の皆さん、そして引率されたCFFスタッフの方々、本当にありがとうございました。



カンボジアの女性を取り巻く状況について熱心に耳を傾けるチームの皆さん

みんなが笑顔になる場所

4月下旬、イースターをお祝いするため、日曜学校で子どもたちに、ゆで卵をふるまいました。「イエス様の復活を信じている皆さんは、新しい命を頂いています。この卵は、その新しい命のシンボルなんですよ」そう伝えて、みんなで一緒にいただきました。普段、ゆで卵を食べる機会が少ない子どもたちは、「先生、おいしい!」と満面の笑みでした。礼拝の後は、日本語クラスがあります。この日は、翌週にお迎えする日本の宣教チームのために、日本語で賛美を歌う練習をしました。「しゅをほめよ」「よみがえられた」など、慣れない言葉にも一生懸命取り組み、日本語での賛美を喜んで歌う子どもたちの姿に感動しました。



(右) 子どもリーダーたちによる祈り
(左) ゆで卵を子どもたちにふるまいました

その後は、みんなが楽しみにしているゲームの時間です。色カードを使ったカルタ形式の遊びでは、「あか」「きいろ」「あお」と声を聞きながら、夢中になって手を伸ばします。遊びの中で、ことばも自然と身についていきます。そしてもう一つの楽しみは、日本から届いた特別なお菓子です。それは子どもたちにとって「ここでしか食べられない」という楽しみの一つになっています。最後はみんな笑顔で「さようなら」と日本語で挨拶し、帰って行きました。

教会は、子どもたちが心から笑顔になれる場所がありますように。子どもたちが毎週教会に来るのが楽しみになるような「小さな喜び」がいつもありますように。そう祈り、願っています。



日本語クラス、色当てカルタゲーム
みんなこの時間をとても楽しみにしています。

奈良ライフソングチャーチ カンボジアミッション

5月頭、奈良ライフソングチャーチ（奈良県天理市）から、ベネディクト・カレブ先生率いる5名の宣教チームがプノンペンに來られ、現地で5日間活動されました。WUPM伊藤仁先生、そして昨年来られた横浜オンヌリキリスト教会とのつながりによって、今回のミッションが実現しました。

これまでの宣教チームと同じく、カンボジア女性支援「希望の糸」へ参加され、キリングフィールド隣の集落での野外伝道、CBUオフィス教会での子ども市場、そして地方での伝道など、厳しい暑さの中、とても精力的に、誠実に主の宣教に仕えてくださいました。



集落にて野外伝道イベント。
子どもたちに呼びかけるカレブ師

主日礼拝では、クメール語の賛美「主をほめたたえよ」をささげてくださいました。CBUオフィス教会でもよく歌う賛美で、事前にチームの皆さんは練習に励み、難しいクメール語の発音もしっかり覚えて下さっていました。一方CBUオフィス教会では、先の記事にあるように、日本語クラスの子もたちがこの賛美の日本語版を事前に覚えてくれました。礼拝ではチームと子どもたちが同じ讚美歌を、クメール語と日本語の両方で心を合わせて賛美をするという祝福の時となりました。



主日礼拝にて、チームと会衆共に、クメール語と日本語で賛美をささげました。

更に今回のミッションでは、「小倉小学校」での活動が初めて実現しました。2000人近くの小学生が学び、日曜学校に来る子どもたちの多くが学んでいます。今回、新校舎の前にある花壇に、お花を植える奉仕を担いました。暑い時間帯でしたので、皆で汗を流しながら作業し、とても素敵な花壇が完成しました。

実は前回の訪問時、新校舎の花壇の植物が少なく、寂しく感じられました。そこでお花の献品と植え込みを校長先生に提案したところ、快く受け入れて下さいました。作業には、途中から生徒さんや保護者の方、校長先生も積極的に加わり、学校を美しく整える喜びを共有することができました。



小倉小学校にて、新校舎の花壇にお花を植える作業を行いました。

作業の後、校庭で子どもたちに福音を伝えることができました。シンプルな英語の賛美に続き、チームの皆さんは子どもたちに、神様の愛、私たちの罪、イエス様の十字架の死、そして復活という福音のエッセンスを、ジェスチャーを使ってとてもわかりやすく伝えてくださいました。この日、福音に触れた子どもたちの何人かが、翌週の日曜学校に早速参加するなど、確かな実を結んでいます。

今回、主の呼びかけに応え、貴重な時間と費用をカンボジア宣教のために献げてくださったチームの皆さんに、そして全てを導いてくださった主に心からの感謝をささげます。



子どもたちに福音を伝える。ハートのジェスチャーで「神様の愛」を伝えています。

APBF ユースミッション

5月上旬、APBF（アジア太平洋バプテスト連盟）の事務総長、ヴィー・テツエオ師（沖縄バプテスト連盟所属「アロン318コミュニティチャーチ」牧師）がCBUオフィスを訪問されました。APBFユース部門は「2040年までに、未伝道・未接触の民族グループへ短期宣教を行う200万人の青年宣教チームを派遣する」というビジョンを掲げています。カンボジアは、このミッションの最初の派遣先として選ばれました。

CBUオフィスでは、CBU理事長ニバス師およびカンボジアで奉仕している宣教師たちと会合を持ち、今年11月に予定されている初の短期宣教旅行の準備を行いました。派遣側と受け入れ側の双方の準備について活発な議論が交わされ、私たちはCBUチームとして参加するよう招待されました。主の導きに感謝いたします。



(左) ヴィー先生と久々の再会を喜びました。
(右) ミーティングの後、食事をしながらディスカッション

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内のインターナショナル校「ホープ・インターナショナル・スクール」で学んでいます。高校2年生の来主はカリキュラムの一環で、ボランティア・プロジェクトがあります。クラスメイトと2人で行うこのプロジェクトにおいて、彼らは「希望の糸」のマーケティング、販売促進活動を行っています。

具体的には、販売用のInstagram作成、販売店開拓のためのダイレクトメール送付、あるいは作り手へのインタビューによるプロモーション動画作成などです。これらの活動は、彼らにとって今までにない貴重な経験になると信じています。「希望の糸」への参加が、彼らの学びに恵みをもたらすようにどうぞお祈りください。



CBUオフィス教会にて
ケマさん（左）にインタビューする来主（右）

一方、中学2年生の栄主のクラスでは「健康と幸福」という授業で、興味深い試みがありました。それは、自分以外のクラスメイト全員に、自分の長所、ストロングポイントについて書いてもらうというものです。本人も、クラスメイト一人一人の長所を書くことになります。自分がクラスメイトの目にどのように映っているのか、特に長所について知ることは、栄主にとって自己理解を深める良い機会となったと思います。

6月4日をもって、ホープスクールは終業式を迎えます。今年も皆さまのお祈りによって、来主、栄主共に学校生活が守られ、学費の必要も満たされました。お祈りとご支援に、心より感謝いたします。



放課後、授業で学んだ内容を確認する栄主

主の宣教を分かち合う恵み — 日本一時帰国 —

来月頭、6月5日から8月4日までの約2か月間、昨年に引き続き日本に一時帰国し、各地の教会にて宣教報告を予定しています。今年の夏も、このようにカンボジアにおける福音宣教の恵みを分かち合う機会が与えられたことを、心から主に感謝いたします。

今回は関東近郊の他、韓国や福井、北九州や沖縄を訪問予定です。各地での奉仕と出会いを通して、新しい支援者が起こされ、祈りの輪が広がるように、お祈りいただければ幸いです。全国各地で、皆さまにお会いできるのを心より楽しみにしています。



お祈りとご支援にいつも感謝しています。
日本で皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

< 祈りの課題 >

1. 6月～7月の一時帰国にて、祈りの輪が広がり、新たな支援者が起こされるように。
2. 現地での宣教の働きが守られ、これからも主にあって実を結んでいくことができるように。
3. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
4. 教会近くの小学校「小倉小学校」との関係が深められ、福音を伝える土台が作られるように。
5. カンボジア女性支援ミニストリー「希望の糸」の新製品が多くの人々に広まるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫 (WUPM宣教師)、来主 (くろす、17歳)、栄主 (えいす、14歳)

(連絡先) Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ: <https://living-field.org/>

(献金振込先) 楽天銀行 ノエル支店 (支店番号 246)

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

